



クイック検索

検索

目次

Copyright © 2012 NTT DATA intra-mart
CORPORATION

目次

- 改訂情報
- TableMaintenance とは
 - 概要
- 基本的な設定
 - レコードの追加/更新/削除
 - テーブル・エクスポート
 - テーブル・インポート
- 応用的な設定
 - エクスポート・インポートの設定をファイルで管理する
 - テーブルの拡張情報の設定
 - メンテナンス画面のアクセス権設定
 - テーブルインポート・エクスポートをジョブとして登録する

改訂情報

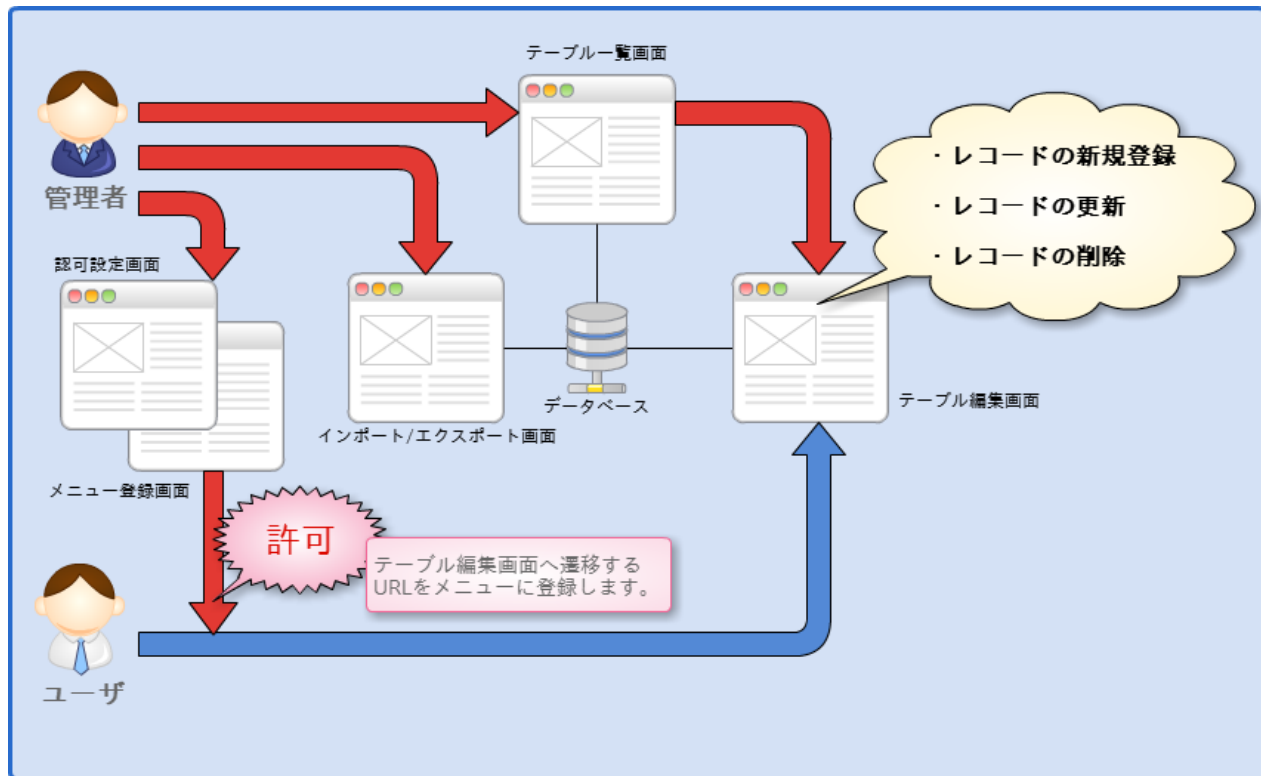
変更年月日	変更内容
2012-10-01	初版
2012-12-21	第2版 下記を追加・変更されました。 「テーブル定義仕様書の作成」が追加されました。
2013-07-01	第3版 下記を追加・変更されました。 「メンテナンス画面のアクセス権設定」が追加されました。
2013-10-01	第4版 下記を追加・変更されました。 「対応するフィールドの型」が追加されました。
2014-01-01	第5版 下記を追加・変更されました。 テーブル一覧(管理)画面からテーブル定義仕様画面へ遷移できるようになりました。
2014-08-01	第6版 下記を追加されました。 - 新しいデータ型(真偽値型)に対応されました。 「データベースにデータをインポートする」に、CSVファイルのヘッダ行(1行目)に関するコラムを追記しました。 「メンテナンス画面のアクセス権設定」に、認可リソースの削除に関するコラムを追記しました。 - レコード編集時のnull値の扱いについて追記しました。
2014-12-01	第7版 下記を追加されました。 「エクスポート・インポートの設定をファイルで管理する」が更新されました。 「デフォルト値の設定」が追記されました。 - テーブル定義XMLファイルのインポートで複数ファイルの選択ができるようになりました。 「インポートとエクスポート」が追記されました。 「レコードの一括インポートとエクスポート」が追記されました。 - レコード編集画面からインポート・エクスポートができるようになりました。 「テーブルインポート・エクスポートをジョブとして登録する」が追記されました。

TableMaintenance とは

ここでは TableMaintenance の概要や、基本的な知識を紹介します。

概要

TableMaintenanceでは、データベース上のテーブルに対してデータの新規登録・更新・削除・インポート・エクスポートができます。データベースを使用するアプリケーションを作成した際に必要になることの多いマスタメンテナンスの機能を、簡単な設定操作で簡易的に実現できます。また管理者がテーブルに対してアクセス権の設定を行うことで、特定のテーブルのみの編集を一般ユーザに対して解放することもできます。



基本的な設定

ここでは基本的な操作を紹介します。

レコードの追加/更新/削除

任意のテーブルを選択して、1件ずつ手入力でレコードを編集します。



注意

主キーが設定されていない、あるいはタイムスタンプ型のフィールドが主キーに含まれているテーブルはサポート対象外です。

目次

- レコードを新規追加する
 - 対応するフィールドの型
- レコードを更新する
- レコードを削除する
- レコードの一括インポートとエクスポート
 - オプション設定
 - 設定ファイルの配置場所

1. 「サイトマップ」をクリックします。
2. 「TableMaintenance」→「テーブル一覧」をクリックします。
3. データベースの接続IDと編集するテーブル名を選択します。

テーブル一覧

認可設定画面を開く

データベース接続ID

tenant ▼

検索 クリア

	テーブル名	説明
1.	BK_IMM_COMPANY_GRP	退避 会社グループ
2.	BK_IMM_COMPANY_GRP_ATH	退避 会社グループ所属
3.	BK_IMM_COMPANY_GRP_INC_ATH	退避 会社グループ内包
4.	BK_IMM_COMPANY_POST	退避 役職
5.	BK_IMM_CORPORATION	退避 法人
6.	BK_IMM_CORPORATION_ATH	退避 法人所属
7.	BK_IMM_CORPORATION_CTG_ATH	退避 法人分類所属
8.	BK_IMM_CORPORATION_GRP	退避 法人グループ
9.	BK_IMM_CORPORATION_GRP_ATH	退避 法人グループ所属
10.	BK_IMM_CORPORATION_GRP_INC_ATH	退避 法人グループ内包
11.	BK_IMM_CURRENCY_RATE	退避 通貨レート
12.	BK_IMM_CUSTOMER	退避 取引先
13.	BK_IMM_CUSTOMER_CTG_ATH	退避 取引先分類所属
14.	BK_IMM_DEPARTMENT	退避 組織
15.	BK_IMM_DEPARTMENT_ATH	退避 組織所属
16.	BK_IMM_DEPARTMENT_CTG_ATH	退避 組織分類所属

テーブルの詳細画面へ遷移します。

設定された検索パターンと検索キーワードでレコードを絞り込むことができます。

アカウント / B_M_ACCOUNT_B

新規作成 削除 入力 一括操作

レコードの新規作成と削除

部分一致 完全一致 以上 以下 AND検索 OR検索 100 件表示

絞り込み条件の検索パターン

レコードの絞り込み条件入力欄

絞り込み条件のクリア

	USER	LOCAL	ENCOD	TIME_ZONE	CALENDAR_ID	FIRST_DAY_OF_WEEK	PASSWORD	NOTES	VALID_START_DATE	VALID_END_DATE	LOCK_DATE
☐	terada					-1	oo2TakyjSPA=		1900/01/01 09:00	3000/01/01 09:00	
☒	aoyagi					-1	0A1msl0DLNo=		1900/01/01 09:00	3000/01/01 09:00	
☐	hagimoto					-1	OYL+MePH4tOijZNqTKNI8A==		1900/01/01 09:00	3000/01/01 09:00	
☐	harada					-1	BnR9jd+191U=		1900/01/01 09:00	3000/01/01 09:00	
☐	hayashi					-1	5hzAghrzZ9A=		1900/01/01 09:00	3000/01/01 09:00	
☐	ikuta					-1	xbIPYj/s2g4=		1900/01/01 09:00	3000/01/01 09:00	
☐	katayama					-1	1Ve2ldTfa5OijZNqTKNI8A==		1900/01/01 09:00	3000/01/01 09:00	
☐	maruyama					-1	FQfDOkc0PO2ijZNqTKNI8A==		1900/01/01 09:00	3000/01/01 09:00	
☐	ohiso					-1	HZAwtw8iRC8=		1900/01/01 09:00	3000/01/01 09:00	
☐	sekine					-1	KN6JmpT6db8=		1900/01/01 09:00	3000/01/01 09:00	
☐	terada					-1	cArhxC2BcrY=		1900/01/01 09:00	3000/01/01 09:00	



注意

「部分一致」での検索は、文字列型フィールドに対してのみ行うことができます。
また、バイナリ型フィールドに対して検索条件を設定することはできません。

レコードを新規追加する

テーブルにレコードを新しく追加するにはメニューから「新規作成」をクリックします。
レコード編集用のダイアログが表示されます。

アカウント / B_M_ACCOUNT_B

← 新規作成 レコードの編集 ×

● 部分一致 ○ 完全一致 備考を表示

USER_CD	LOCALE_ID	ENCODING	TIME_ZONE	CALENDAR	FIRST_DAY_OF_WEEK	PASSWORD	NOTES	VALID_START_DATE	VALID_END_DATE	LOCK_DATE	LOGIN_FAILURE_COUNT	CREATE_USER_CD	CREATE_DATE	RECORD_USER_CD	RECORD_DATE
tenant															
☒ aoyagi					-1	0A1msl0DLNo=		1900/01/01 09:00	3000/01/01 09:00		0	system	2014/11/19 17:20	system	2014/11/19 17:20
☐ hagimoto															
☐ harada															
☐ hayashi															
☐ ikuta															
☐ katayama															
☐ maruyama															
☐ ohiso															
☐ sekine															
☐ terada															
☐ ueda															
☐ yoshihara															

1

前のレコードへ移動します。 新規登録 更新登録 削除 次のレコードへ移動します。

フィールド名
・主キーの場合は(PK)と表示されます。
・必須項目の場合は*が表示されます。

フィールドの型
・文字列 / 数値 / 日付 / タイムスタンプのいずれかです。

「新規登録」でINSERT文
「更新登録」でUPDATE文を発行します。

新しいレコードを登録する場合は「新規登録」をクリックします。

正常に登録完了できた場合は下記のダイアログが表示されます。

レコードの編集

USER_CD (PK) *	aoyagi	(文字列)
LOCALE_ID		(文字列)
ENCODING		(文字列)
TIME_ZONE_ID		(文字列)
CALENDAR_ID		(文字列)
FIRST_DAY_OF_WEEK		(数値)
PASSWORD		(文字列)
NOTES		(文字列)
VALID_START_DATE *		(タイムスタンプ)
VALID_END_DATE *		(タイムスタンプ)
LOCK_DATE		(タイムスタンプ)
LOGIN_FAILURE_COUNT *	0	(数値)
CREATE_USER_CD *	system	(文字列)
CREATE_DATE *	2012/08/31 10:55	(タイムスタンプ)
RECORD_USER_CD *	system	(文字列)
RECORD_DATE *	2012/08/31 10:55	(タイムスタンプ)

完了

登録しました

決定

新規登録 更新登録 削除

i コラム

新規作成の場合は、「新規登録」ボタンのみ表示されます。
「更新登録」、「削除」、前後のレコードへの遷移ボタンは、既存のレコードを選択したとき（更新時）のみ表示されます。

i コラム

日付型とタイムスタンプ型のフィールドの場合は、型名にマウスカーソルを乗せると入力フォーマットがツールチップで表示されます。
さらに型名をクリックすると、そのフォーマットでシステム日付が挿入されます。

	(数値)	
	(文字列)	em
	(タイムスタンプ)	em
	(文字列 yyyy/MM/dd HH:mm)	em
	(タイムスタンプ)	em

i コラム

編集ダイアログで、null値に関しては以下のように扱われます。

文字列型フィールド: 空文字
数値型フィールド: 0
日付型、タイムスタンプ型フィールド: 空文字
真偽値型: false

対応するフィールドの型

i コラム

TableMaintenance機能で対応する各種データベースごとの型は次の通りです。

データベース名	文字列型	数値型	日付型	タイムスタンプ型	バイナリ型	真偽値型
Oracle	VARCHAR2 VARCHAR NVARCHAR2 CHAR NCHAR	NUMBER BINARY_FLOAT BINARY_DOUBLE	DATE(※mapDateToTimestampをfalseに設定している場合のみ)	DATE TIMESTAMP	BLOB CLOB	なし
DB2	VARCHAR CHAR	BIGINT SMALLINT INTEGER DOUBLE NUMERIC REAL	DATE	TIMESTAMP	BLOB CLOB	なし
SQL Server	varchar char nvarchar nchar ntext	bigint int smallint tinyint decimal numeric money smallmoney float real	date	datetime smalldatetime datetime2	binary varbinary	bit
PostgreSQL	varchar character text	smallint bigint decimal numeric real	date	timestamp	bytea	boolean



注意

TableMaintenance上でのデータ型は、JDBCドライバの実装やデータベース製品の仕様に依存します。そのため、ドライバのバージョンによって上記の表の通りのマッピングにならない可能性があります。

レコードを更新する

既存のレコードを更新したい場合は、更新したいレコードのデータをクリックします。

アカウント / B_M_ACCOUNT_B

← 新規作成 削除 インポート エクスポート

☒ 部分一致
 ☐ 完全一致
 ☐ 以上
 ☐ 以下
 ☒ AND検索
 ☐ OR検索
 100 件表示
 ☒ 項目名表示切り替え

	USER_CD	LOCAL_E_ID	ENCODING	TIME_ZONE_ID	CALENDAR_ID	FIRST_DAY_OF_WEEK	PASSWORD	NOTES	VALID_START_DATE	VALID_END_DATE
☐	tenant					-1	oo2TakyjSPA=		1900/01/01 09:00	3000/01/01 09:00
☐	aoyagi					-1	0A1msl0DLNo=		1900/01/01 09:00	3000/01/01 09:00
☐	hagimoto					-1	OYL+MePH4tOijZNqTKNI8A==		1900/01/01 09:00	3000/01/01 09:00
☐	harada					-1	BnR9jd+191U=		1900/01/01 09:00	3000/01/01 09:00
☐	hayashi					-1	5hzAghrzZ9A=		1900/01/01 09:00	3000/01/01 09:00
☐	ikuta					-1	xbIPYj/s2g4=		1900/01/01 09:00	3000/01/01 09:00
☐	katayama					-1	1Ve2ldTfa5OijZNqTKNI8A==		1900/01/01 09:00	3000/01/01 09:00
☐	maruya					-1	FQfDOkc0PO2IjZNq		1900/01/01 09:00	3000/01/01 09:00

更新したいデータをクリックします。

クリックしたフィールドの入力欄がアクティブになった状態で、新規追加のときと同じダイアログが表示されます。編集が完了したら「更新登録」をクリックします。



コラム

ここで「新規登録」をクリックすると、更新ではなく新しいレコードの作成を行います。このようにすることで、既存のレコードを簡単にコピーすることができます。



注意

主キーが重複しないように注意してください。

レコードを削除する

レコードを削除する場合は、削除したいレコードにチェックを入れてメニューから「削除」を選択します。

アカウント / B_M_ACCOUNT_B

← 新規作成 削除

チェックされたレコードの削除を実行します。

● 部分一致 ● 完全一致 ● 以上 ● 以下 ● AND検索 ● OR検索 100 件表示 ☒ 項目名表示切り替え

	USER_CD	LOCAL_E_ID	ENCODING	TIME_ZONE_ID	CALENDAR_ID	FIRST_DAY_OF_WEEK	PASSWORD	NOTES	VALID_START_DATE	VALID_END_DATE
☐	tenant					-1	oo2TakyjSPA=		1900/01/01 09:00	3000/01/01 09:00
☒	aoyagi					-1	0A1msl0DLNo=		1900/01/01 09:00	3000/01/01 09:00
☒	hagimoto					-1	OYL+MePH4tOijZNqTKNi8A==		1900/01/01 09:00	3000/01/01 09:00
☒	harada					-1	BnR9jd+191U=		1900/01/01 09:00	3000/01/01 09:00
☐	hayashi					-1	5hzAghrzZ9A=		1900/01/01 09:00	3000/01/01 09:00
☐	ikuta					-1	xbIPYj/s2g4=		1900/01/01 09:00	3000/01/01 09:00
☐	katayama					-1	1Ve2ldTfa5OijZNqTKNi8A==		1900/01/01 09:00	3000/01/01 09:00

削除したいレコードをチェックします。

i コラム

バイナリ系データはファイル単位で扱います。
登録したいデータファイルをアップロードしてください。

← 新規作成 削除 インポート エクスポート

● 部分一致 ● 完全一致 ● 以上 ● 以下 ● AND検索 ● OR検索 100 件表示

ID BDATA

1

レコードの編集

ID (PK) * aaa (文字列)

BDATA

+ ファイル追加... × 中断 削除 (バイナリ)

新規登録

登録に成功するとレコード一覧にはデータサイズが表示され、リンクをクリックするとデータをファイルとしてダウンロードすることができます。

← 新規作成 削除 インポート エクスポート

☒ 部分一致 ☐ 完全一致 ☐ 以上 ☐ 以下 ☒ AND検索 ☐ OR検索

ID	BDATA
aaa	18.4 KB

1

登録済みのデータを削除したい場合は「削除する」をチェックしてください。

← 新規作成 削除 インポート エクスポート

☒ 部分一致 ☐ 完全一致 ☐ 以上 ☐ 以下 ☒ AND検索 ☐ OR検索 100 件表示

ID	BDATA
☒ aaa	18.4 KB

1 レコードの編集

ID (PK) *	aaa	(文字列)
BDATA	18.4 KB ☒ 削除する	(バイナリ)

+ ファイル追加... × 中断 削除

◀ 新規登録 更新登録 削除 ▶



注意

主キーが設定されていないテーブルでは、レコードの更新・削除は行えません。

レコードの一括インポートとエクスポート

テーブルに登録されているレコードを一括してエクスポート、もしくはインポートを行うことができます。

※8.0.9 - 2014 Winter (Iceberg)から利用可能です

intra-mart® Top Workflow テナント管理 ViewCreator サイトマップ

ユーザ / IMM_USER

← 新規作成 削除 インポート エクスポート

☒ 部分一致
 ☐ 完全一致
 ☐ 以上
 ☐ 以下
 ☒ AND検索
 ☐ OR検索
 100 件表示
 ☐ 項目名表示切り替え

	ユーザコード	ロケール	期間コード	開始日	終了日	ユーザ名	ユーザ検索名	性別	国コード	郵便番号	住所1	住所2	住所3	電話番号	内線番号	FAX番号	内線AX番号
☐	tenant	ja	5ibfidd50 zwlap4	1900/ 01/01	3000/ 01/01	tenant											
☐	tenant	en	5ibfidd50 zwlap4	1900/ 01/01	3000/ 01/01	tenant											
☐	tenant	zh_CN	5ibfidd50 zwlap4	1900/ 01/01	3000/ 01/01	tenant											
☐	ueda	ja	term_00	1900/ 01/01	2000/ 01/01	上田辰男	ウエダ タツオ	0									



注意

レコード編集画面のインポート・エクスポートでは、カレントのテーブルに対してのみ操作を行うことができます。

オプション設定

「テーブル・エクスポート」や「テーブル・インポート」と同様に、細かな設定を行うことも可能です。
設定は下記のディレクトリに配置されるファイルで管理されます。

設定ファイルの配置場所

%PUBLIC_STORAGE_PATH%/products/tablemaintenance/table_edit_importexport/%テナントID%/テーブル名%

- エクスポートに関する設定ファイル

export-option.xml

- インポートに関する設定ファイル

import-option.xml



コラム

上記の設定ファイルは、一度「インポート」、「エクスポート」を実行すると自動生成されます。



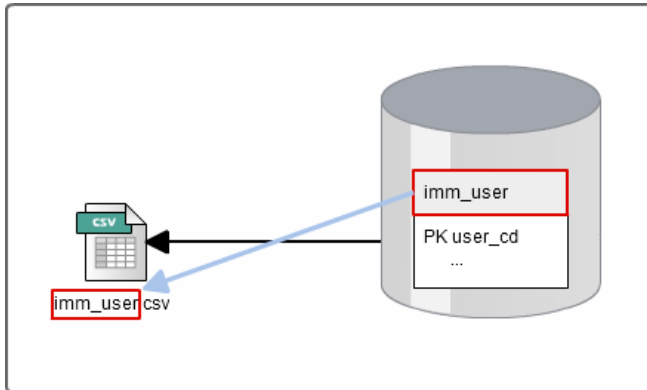
コラム

設定内容の詳細については、「[エクスポート・インポートの設定をファイルで管理する](#)」を参照してください。

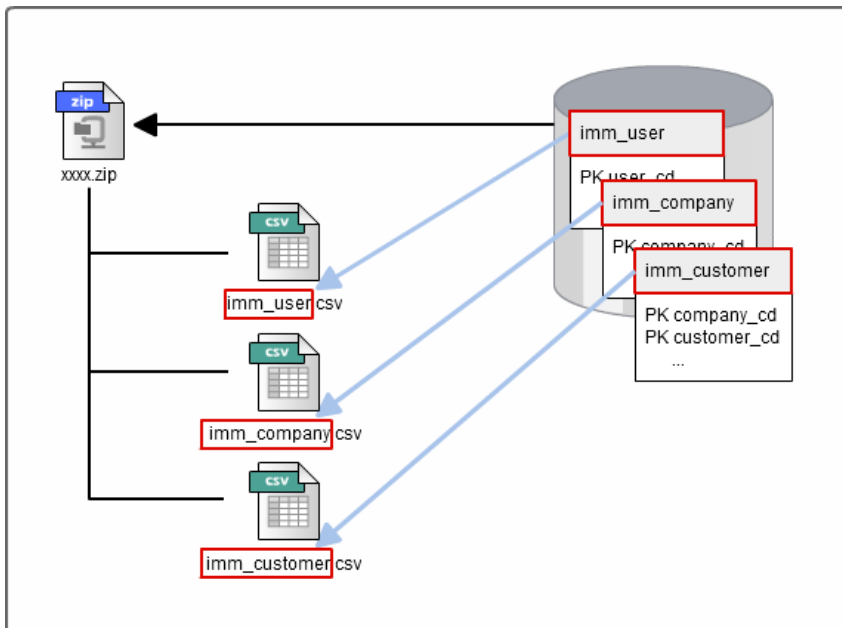
テーブル・エクスポート

データベース上のテーブルのデータをTableMaintenance機能でエクスポートすることができます。
エクスポートしたファイルは、クライアントのローカルまたは、ストレージにCSV形式で出力されます。
テーブル・エクスポート機能は、管理者のみ行うことができます。

エクスポートするテーブルが1つの場合は、テーブル名をCSVファイル名として出力します。



エクスポートするテーブルが複数の場合は、任意の名前（日付形式）として強制的にzip圧縮して出力します。



目次

- データベース上のテーブルをエクスポートする
- オプション設定について

1. 「サイトマップ」をクリックします。
2. 「TableMaintenance」→「テーブル・エクスポート」をクリックします。

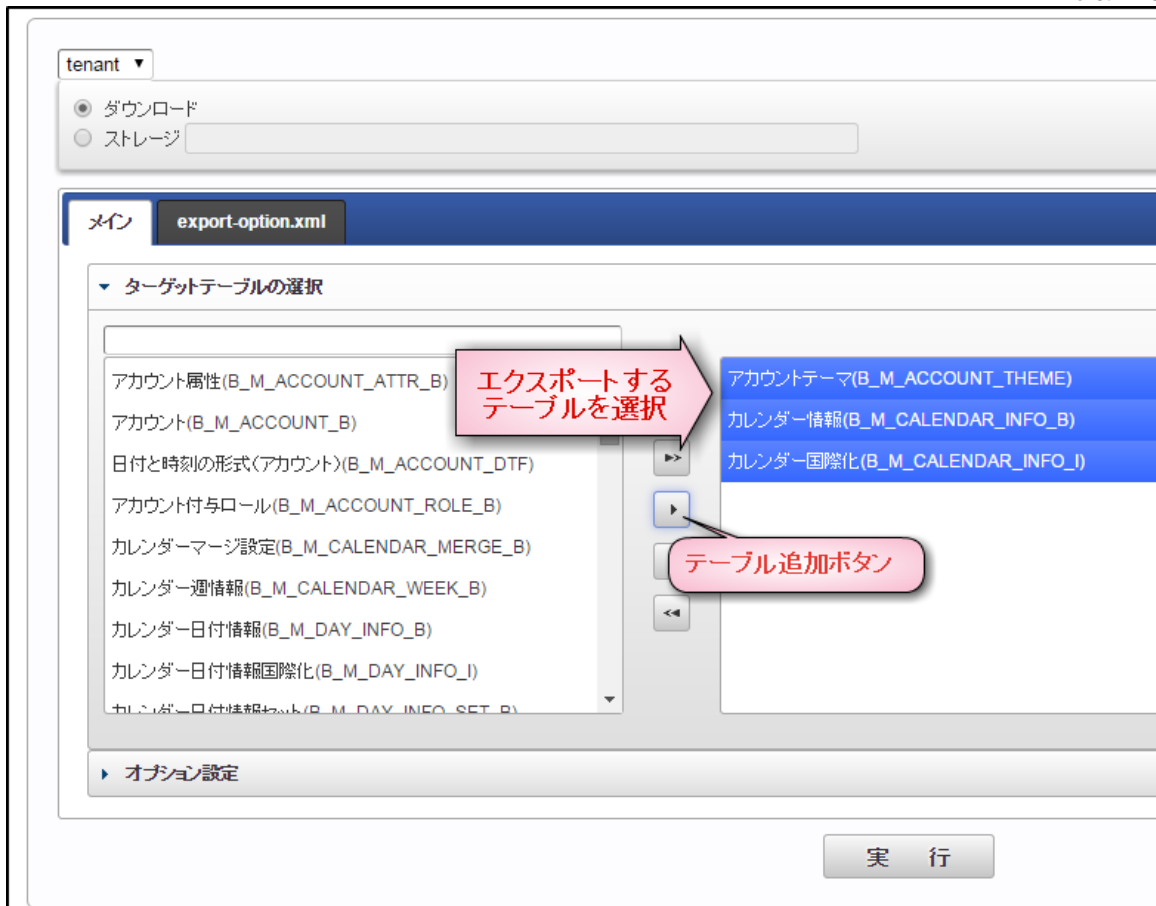
データベース上のテーブルをエクスポートする

データベース接続IDとエクスポートファイルの出力先を選択します。

The screenshot shows the 'テーブル・エクスポート' (Table Export) window. At the top, there's a 'tenant' dropdown and a 'データベース接続ID' (Database Connection ID) field. Below these are radio buttons for 'ダウンロード' (Download) and 'ストレージ' (Storage). A red callout points to the '出力先の選択' (Output Destination Selection) area. The main section is titled 'export-option.xml' and contains a 'ターゲットテーブルの選択' (Target Table Selection) section with a list of tables and a 'オプション設定' (Option Setting) section. A '実行' (Execute) button is at the bottom right.

※ストレージを出力先に指定する場合は、パスを入力します。

次にエクスポート対象のテーブルを選択します。



テーブル追加ボタンまたは、ダブルクリックでテーブルを選択します。

必要に応じて後述のオプション設定を入力後、「実行」ボタンをクリックするとデータがエクスポートされます。



注意

同一テーブル名を重複して選択することはできませんのでご注意ください。

オプション設定について

テーブル・エクスポート機能では、いくつかのオプションが設定できます。

「オプション設定」をクリックして項目を表示します。

tenant ▼

☒ ダウンロード
☐ ストレージ

メイン

export-option.xml

▶ ターゲットテーブルの選択

▼ オプション設定

ファイルエンコーディング

MS932 ▼

改行コード

CRLF ▼

日付フォーマット

yyyy/MM/dd|HH:mm:ss

数値フォーマット

#

バイナリデータ

☐ エクスポートファイルに含める
☒ 別ファイルに出力する

エクスポートファイルが1つのとき

☒ そのまま出力する
☐ ZIP圧縮する

ZIPファイル名

出力開始レコード位置

0

最大出力件数(件)

0

Null値の代わりに出力する文字列

ヘッダ

☒ 出力する
☐ 出力しない

実行

ファイルエンコーディング

エクスポートしたCSVファイルのエンコーディングを指定するための設定です。環境に合わせて適切な値を設定してください。

以下のエンコーディングを設定することができます。

MS932, UTF-8, UTF-16, EUC_JP

改行コード

エクスポートしたCSVファイルの改行コードを選択します。環境に合わせて適切な値を設定してください。

改行コードは、以下の三つのみ指定することができます。

CRLF, LF, CR

日付フォーマット

エクスポート対象のテーブルに日付型、もしくはタイムスタンプ型のフィールドがある場合 このオプションで設定した日付フォーマットで出力されます。

例) yyyy/MM/dd|HH:mm:ss yyyy/MM/dd など

数値フォーマット

エクスポート対象のテーブルに数値型のフィールドがある場合 このオプションで設定した数値フォーマットで出力されます。

例) ###,###(3桁ごとにカンマを入れる) #.##(小数点以下2桁まで出力する)

バイナリデータ	エクスポート対象のテーブルに、バイナリのデータがあった場合、出力ファイル中に含めるかどうかを選択します。 【エクスポートファイルに含める】 バイト配列データをBASE64でエンコードした文字列がCSVファイル内に出力されます。 【別ファイルに出力する】 バイナリファイルとして出力され、エクスポートデータにはバイナリファイルへの相対パスが書き込まれます。
エクスポートファイルが1つのとき	エクスポート対象のテーブルが1つの場合、zipで圧縮するかどうかを設定します。対象テーブルが複数の場合は、常に圧縮されます。 【そのまま出力する】 「テーブル名.csv」ファイルとして出力されます。 【ZIP圧縮する】 zip圧縮して出力されます。ファイル名には、日付形式の任意の名前が付けられます。
ZIPファイル名	ZIP形式で出力する場合のファイル名を設定します。ZIPファイル名を設定しない場合、日付形式の任意の名前が付けられます。
出力開始レコード位置	出力を開始するレコード位置を設定します。「0」が設定された場合は、テーブルの全レコードを出力します。
最大出力件数(件)	最大出力件数を設定します。「0」が設定された場合は、制限なしとなります。
Null値の代わりに出力する文字列	データベースのフィールドにNullがある場合に、CSV出力時にNull値に対する代替文字列を出力するための設定です。
ヘッダ	対象テーブルのフィールド名をCSVファイルに出力するかどうかを設定します。



コラム

- 対応するバイナリ系フィールドの型

エクスポートおよびインポートが可能なバイナリ系の型は次の通りです。

データベース名	型名
Oracle	BLOB CLOB
DB2	BLOB CLOB
SQL Server	image varbinary
PostgreSQL	bytea



注意

DB2では、バイナリ(BLOB、CLOB)データを含んでいるテーブルをエクスポートする場合、[出力開始レコード位置]オプションに「0」以外の値を指定することはできません。

テーブル・インポート

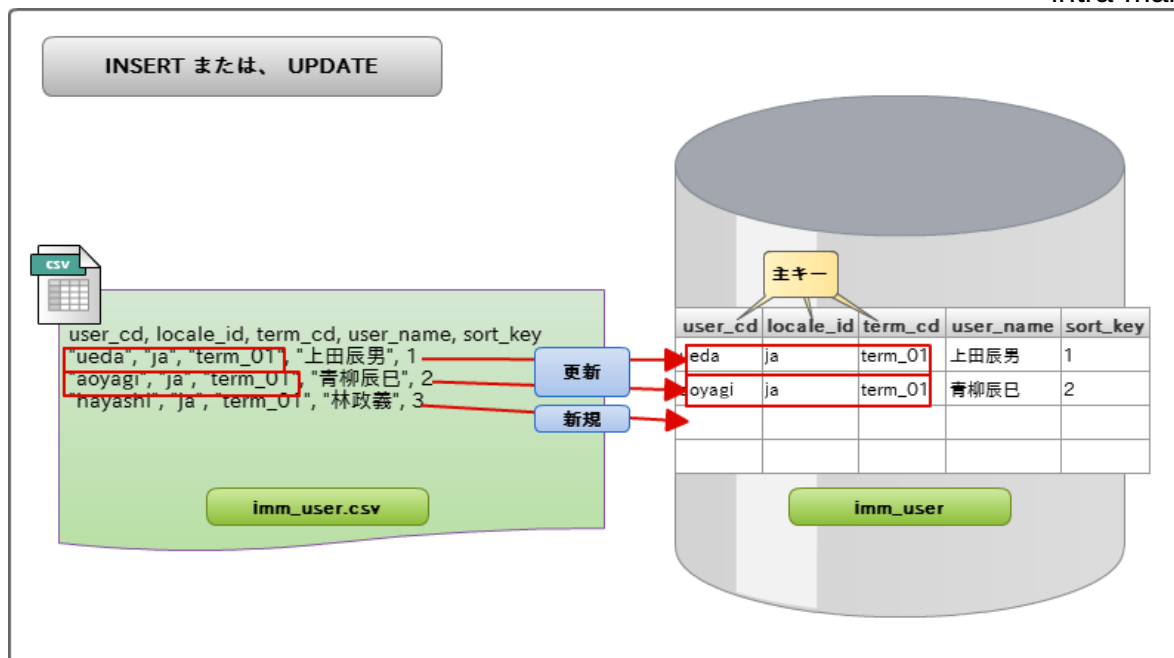
テーブル・エクスポートで書き出しておいたインポートファイルをTableMaintenance機能でインポートすることができます。

インポートファイルは、CSV形式のファイルまたは、CSV形式のファイルを含んでいるZIPファイルです。

テーブル・インポート機能は、管理者のみ行うことができます。

対象テーブルの主キーに同じデータが既に存在する場合、更新処理を行います。

主キーに同じデータが存在しない場合は、新規登録処理を行います。



! 注意

主キーが設定されていない、あるいはタイムスタンプ型のフィールドが主キーに含まれているテーブルはサポート対象外です。

目次

- データベースにデータをインポートする
- オプション設定について

1. 「サイトマップ」をクリックします。
2. 「TableMaintenance」→「テーブル・インポート」をクリックします。

データベースにデータをインポートする

データベース接続IDと、ローカルのインポートファイルを選択します。



The screenshot displays the 'テーブル・インポート' (Table Import) screen. At the top, there's a 'tenant' dropdown. Below it, a 'データベース接続ID' (Database Connection ID) field is highlighted with a red callout. To the right of this field are three buttons: '+ ファイル追加...' (Add File), '× 中断' (Cancel), and a trash icon '削除' (Delete). The '+ ファイル追加...' button is highlighted with a red callout labeled 'インポートファイルの追加' (Add Import File). Below these buttons is a 'ストレージ' (Storage) input field. The interface has a tabbed layout with 'メイン' (Main) and 'import-option.xml'. The 'import-option.xml' tab is active, showing the 'オプション設定' (Option Settings) section. This section contains several configuration items: 'ファイルエンコーディング' (File Encoding) with a dropdown set to 'MS932', '最大エラーサイズ' (Maximum Error Size) with a text input set to '50', '中途コミット件数間隔(件)' (Commit Interval) with a text input set to '0', '日付フォーマット' (Date Format) with a text input set to 'yyyy/MM/dd|HH:m', '数値フォーマット' (Number Format) with a text input set to '#', and two empty text input fields for 'Null値として扱う文字列' (String to treat as Null value).

「開始」ボタンをクリックするとストレージにファイルがアップロードされます。

テーブル・インポート

tenant ▼

+ ファイル追加... × 中断 🗑 削除

view.zip (48.55 KB) 🗑

ストレージ tablemaintenance/view.zip

メイン import-option.xml

ストレージにアップロードされたインポートファイル

▼ オプション設定

ファイルエンコーディング	MS932 ▼
最大エラーサイズ	50
中途コミット件数間隔(件)	0
日付フォーマット	yyyy/MM/dd HH:mm
数値フォーマット	#
Null値として扱う文字列	
Null値として扱う文字列(文字列型用)	
インサート・モード	☐ 有効 ☒ 無効

i コラム

既にストレージ（パブリックストレージ）にインポートファイルが存在する場合は上記アップロード手順は行わずに「ストレージ」に直接ファイルのパスを入力します。

i コラム

CSVファイルの1行目がデータベースのテーブルで定義されているフィールド名と一致する場合は、データ行ではなくヘッダ行として解釈されます。

そのときのフィールドの順番は、データベース上のフィールドの順番と一致している必要はありません。

また、NOT NULL制約が付いていないフィールドであれば、そのフィールドのデータやヘッダが省略されている場合においてもインポートが可能です。

ヘッダ行が無い場合は、JDBCドライバから取得可能なフィールドのインデックス番号とCSVファイルの列インデックス番号がマッピングされます。

必要に応じて後述のオプション設定を入力後、「実行」ボタンをクリックするとデータがインポートされます。

オプション設定について

テーブル・インポート機能では、いくつかのオプションが設定できます。

ファイルエンコーディング

CSVファイルのエンコーディングを指定するための設定です。CSVファイルのエンコーディングとイントラマートのエンコーディングを確認した上で指定してください。

以下のエンコーディングを設定することができます。

MS932, UTF-8, UTF-16, EUC_JP

最大エラーサイズ	インポート処理中エラーが発生した場合の処理中止件数を設定します。インポートに失敗したデータ件数が設定値を超えた場合、インポートを中止します。 例) 10件を設定した場合 発生したエラーが10件を超えた場合、インポート実行中のCSVファイルのインポート処理を中止して次のCSVファイルのインポート処理を行います。
中途コミット件数間隔(件)	設定された件数のデータをインポートするごとにコミットを行います。「0」が設定された場合は、インポート処理の最後に一度だけコミット処理を行います。
日付フォーマット	日付型、もしくはタイムスタンプ型のフィールドに対してデータをインポートする場合 このオプションで設定したフォーマット文字列を用いてインポートデータを変換します。 例) yyyy/MM/dd HH:mm:ss yyyy/MM/dd など ※変換に失敗した場合はエラーになります。
数値フォーマット	数値型のフィールドに対してデータをインポートする場合 このオプションで設定したフォーマット文字列を用いてインポートデータを変換します。 ※変換に失敗した場合はエラーになります。
Nullとして扱う文字列	設定された文字列がインポートデータ中に存在した場合、その値はNull値として扱われます。この設定は、データベースのデータ型が文字列型以外の場合のみ適応します。
Nullとして扱う文字列 (文字列型フィールド用)	Null値として扱う文字列を設定します。データベースのデータ型が文字列型の場合、設定された文字列がインポートデータ中に存在した場合、その値はNull値として扱われます。
インサート・モード	【有効】CSVファイルのデータをインポートするとき、全てのデータをINSERTで処理します。主キーのフィールドに同じ値のデータが既に存在する場合はエラー（一意制約違反）になります。 【無効】対象テーブルの主キーのフィールドに同じ値のデータが既に存在する場合、UPDATEで処理を行います。同じ値のデータが存在しない場合は、INSERTで処理します。
洗い替えモード	【有効】CSVファイルのデータをインポートする前に対象のテーブルのレコードを全て削除し、INSERT文で処理します。 【無効】インポート前の削除処理は行いません。
エラーデータ存在時のコミット	【有効】インポートに失敗したデータが存在していても、成功した分のデータのコミットを実行します。 【無効】インポートに失敗したデータが1件でも存在した場合はコミットを行いません。



注意

指定されたエンコーディングとCSVファイルのエンコーディングが異なると、インポートしたデータの文字化けが発生する可能性がありますのでご注意ください。

応用的な設定

ここでは応用的な操作を紹介します。

エクスポート・インポートの設定をファイルで管理する

テーブルのエクスポート・インポートに対する設定は、画面上からXML形式で編集することができます。

目次

- エクスポートの設定をファイルで管理する
- インポートの設定をファイルで管理する
- デフォルト値の設定
 - 設定ファイルの配置場所

エクスポートの設定をファイルで管理する

選択したエクスポート対象のテーブルや、オプション設定で入力した内容はXML形式の文字列データで取得することができます。

「export-option.xml」タブを選択すると次の画面に遷移します。

この設定データを、テキストエディタなどを使用してローカルに保存しておくことができます。

設定を読み込ませるには、保存しておいたデータをここにペーストします。

「メイン」タブの入力項目との対応関係は以下の通りです。

タグ名	対になるメインタブの入力項目	設定可能な値
date-formatタグ	日付フォーマット	メインタブ内の対応する入力項目と同じ
decimal-formatタグ	日付フォーマット	メインタブ内の対応する入力項目と同じ
newline-codeタグ	改行コード	メインタブ内の対応する入力項目と同じ
		CRLF, LF, CR のいずれかを指定します

タグ名	対になるメインタブの入力項目	設定可能な値
encodingタグ	ファイルエンコーディング	メインタブ内の対応する入力項目と同じ 「アルファベット」文字をバイトシーケンスに符号化できるエンコーディングセットであれば正常に動作します。
include-binaryタグ	バイナリデータ	trueもしくはfalse
zip-fileタグ	エクスポートファイルが1つのとき	trueもしくはfalse
zip-file-nameタグ	ZIPファイル名	メインタブ内の対応する入力項目と同じ
max-rowタグ	最大出力件数(件)	メインタブ内の対応する入力項目と同じ
null-valueタグ	Null値の代わりに出力する文字列	メインタブ内の対応する入力項目と同じ
output-headerタグ	ヘッダ	trueもしくはfalse
start-indexタグ	出力開始レコード位置	メインタブ内の対応する入力項目と同じ
tableタグ	ターゲットテーブル	table-nameタグとdest-file-nameタグを子要素として持ちます table-nameタグ: ターゲットテーブルの物理名 dest-file-nameタグ: CSVファイル名に使用する文字列



コラム

- <table-name>タグでSELECT文を指定可能

<table-name>タグでSELECT文を指定することができます。

この機能により、テーブルのデータをエクスポートする際に条件を加えて必要な情報のみエクスポートすることができます。

さらに、複数のテーブルからそれぞれ必要な情報を取り出してエクスポートすることも可能です。

<table-name>タグでSELECT文を指定した場合は、必ず<dest-file-name>タグでテーブルのエイリアス名を設定する必要があります。

エイリアス名を指定しない場合、システムで自動生成された文字列が設定されます。

例えば、以下のように指定します。

```
<table>
  <table-name>SELECT user_cd, sort_key, notes FROM b_m_user_b</table-name>
  <dest-file-name>b_m_user_b</dest-file-name>
</table>
```

上記のサンプルを指定して「メイン」タブに切り替えた場合は、選択されたテーブル一覧には、エイリアス名が表示されます。



コラム

- テーブルのフィールド単位で出力の有無を指定可能

<field-name>タグでフィールド単位で出力の有無を指定可能です。

<table>タグに<field-name>タグを指定した順序に従ってcsvファイルに出力されます。

<field-name>タグを指定しないフィールドは、CSVに出力されませんのでご注意ください。

例えば、以下のように指定します。

```
<table>
  <table-name>b_m_user_b</table-name>
  <field-name>user_cd</field-name>
  <field-name>sort_key</field-name>
  <field-name>notes</field-name>
</table>
```

インポートの設定をファイルで管理する

エクスポートと同様に、オプション設定で入力した内容はXML形式の文字列データで取得することができます。

「import-option.xml」タブを選択すると次の画面に遷移します。

default

+ ファイル追加... 開始 中断

ストレージ

メイン import-option.xml

```
<import-option>
  <encoding>MS932</encoding>
  <max-error-size>50</max-error-size>
  <date-format>yyyy/MM/dd|HH:mm:ss</date-format>
  <decimal-format>#</decimal-format>
  <null-value>[NULL]</null-value>
  <null-value-for-string>[NULL]</null-value-for-string>
  <insert-mode>false</insert-mode>
  <replace-all-mode>false</replace-all-mode>
  <commit-with-error>false</commit-with-error>
  <file>
    <file-name>account.csv</file-name>
    <import-table-name>b_m_account_b</import-table-name>
  </file>
  <file>
    <file-name>company.csv</file-name>
    <import-table-name>imm_company</import-table-name>
  </file>
</import-option>
```

実行

この設定データを、テキストエディタなどを使用してローカルに保存しておくことができます。

設定を読み込ませるには、保存しておいたデータをここにペーストします。

「メイン」タブの入力項目との対応関係は以下の通りです。

タグ名	対になるメインタブの入力項目	設定可能な値
encodingタグ	ファイルエンコーディング	メインタブ内の対応する入力項目と同じ
max-error-sizeタグ	最大エラーサイズ	メインタブ内の対応する入力項目と同じ
interval-commit-countタグ	中途コミット件数間隔(件)	メインタブ内の対応する入力項目と同じ
date-formatタグ	日付フォーマット	メインタブ内の対応する入力項目と同じ
decimal-formatタグ	日付フォーマット	メインタブ内の対応する入力項目と同じ
null-valueタグ	Null値として扱う文字列	メインタブ内の対応する入力項目と同じ
null-value-for-stringタグ	Null値として扱う文字列(文字列型用)	メインタブ内の対応する入力項目と同じ
insert-modeタグ	インサート・モード	trueもしくはfalse
replace-all-modeタグ	洗い替えモード	trueもしくはfalse
commit-with-errorタグ	エラーデータ存在時のコミット	trueもしくはfalse

タグ名	対になるメインタブの入力項目	設定可能な値
fileタグ	なし。メインタブでは設定できません	file-nameタグとimport-table-nameタグを子要素として持ちます file-nameタグ: ファイル名 import-table-nameタグ: インポート先のテーブル名



コラム

- fileタグでimport-table-nameタグを指定しない場合

<import-table-name>タグを指定しない場合は、ファイル名と同じテーブルにインポートします。

また、<file>タグで指定された順番でインポートを実行します。

デフォルト値の設定

良く利用する設定等がある場合は、デフォルト値として登録しておくことが可能です。

※8.0.9 - 2014 Winter (Iceberg)から利用可能です

設定ファイルの配置場所

下記のファイルを編集します。

%PUBLIC_STORAGE_PATH%/products/tablemaintenance/export-option-default.xml

%PUBLIC_STORAGE_PATH%/products/tablemaintenance/import-option-default.xml

テーブルの拡張情報の設定

この設定を行うことで、メンテナンス画面をより分かりやすく、あるいは入力操作をしやすくすることができます。

目次

- テーブル定義仕様書の作成
- インポートとエクスポート

1. 「サイトマップ」をクリックします。
2. 「TableMaintenance」→「テーブル・キャプション登録」をクリックします。
3. データベースの接続IDと言語を選択します。

テーブル・キャプション登録

エクスポート インポート

default 日本語

検索 絞り込む

データベース接続IDと言語を選択します。

テーブル名	キャプション	コメント
b_m_account_attr_b	アカウント属性	
b_m_account_b	アカウント	
b_m_account_dtf	日付と時刻の形式(アカウント)	
b_m_account_role_b	アカウント付与ロール	
b_m_account_theme	アカウントテーマ	
b_m_calendar_info_b	カレンダー情報	
b_m_calendar_info_i	カレンダー国際化	
b_m_calendar_merge_b	カレンダーマージ設定	
b_m_calendar_week_b	カレンダー週情報	
b_m_day_info_b	カレンダー日付情報	
b_m_day_info_i	カレンダー日付情報国際化	

任意のテーブルをクリックすると、フィールドの一覧が表示されます。

b_m_update_info

b_vc_data

フィールド名	キャプション	コメント	textures
data_cd	(String) データ参照コード		☐
query_cd	(String) クエリコード	データ参照が使用するクエリのコードです	☐
data_name	(String) データ参照名	b_vc_data_i テーブルにデータが無い場合のみ使用します	☐
data_info	(String) データ参照説明		☐
header_info	(String) ヘッダ表示文字列	b_vc_data_i テーブルにデータが無い場合のみ使用します	☐
footer_info	(String) フッタ表示文字列	b_vc_data_i テーブルにデータが無い場合のみ使用します	☐
pattern	(String) データ参照パターン	1: リスト集計 2: サマリー集計 3: クロス集計 4: グラフ集計	☐
up_date	(String) 更新日	※ 予備フィールド	☐
search_flg	(String) 検索ウィンドウ表示パターン	※ 予備フィールド	☐
line_count	(Number) 1ページに表示するレコード数		☐
program_path	(String) 連携プログラムパス	formタグのaction属性にセットする値を記述します	☐
create_user_cd	(String) 作成者ユーザコード		☐
record_user_cd	(String) 更新者ユーザコード		☐
create_date	(Timestamp) 作成日		☐
record_date	(Timestamp) 更新日		☐

登録 仕様書を表示する

テーブル名やフィールド名に分かりやすい日本語のキャプションやコメントを設定することができます。

キャプション	テーブルやフィールドの日本語名を入力します。
コメント	テーブルやフィールドの説明や備考を入力します。
textarea	そのフィールドの入力インタフェースとして テキストエリアを使用するかどうかを設定します。 ※コメント欄をテキストエリアにするための設定ではありません。

設定後のテーブル一覧画面

テーブル一覧			
認可設定画面を開く			
tenant ▼ b_vc 検索 クリア			
	テーブル名		
84.	B_VC_DATA	データ参照	データ参照の基本テーブルです
85.	B_VC_DATA_ACL	データ参照閲覧権限	データ参照の閲覧権限を管理します
86.	B_VC_DATA_CROSS	データ参照/クロス	データ参照(クロス集計)の設定情報を管理します
87.	B_VC_DATA_GRAPH	データ参照/グラフ	データ参照(グラフ集計)の設定情報を管理します
88.	B_VC_DATA_GRAPH_DATA	データ参照/グラフ2	データ参照(グラフ集計・円グラフ用)の設定情報を管理します
89.	B_VC_DATA_GRAPH_INFO	データ参照/グラフ・カラム	データ参照(グラフ集計・円グラフ以外)の設定情報を管理します
90.	B_VC_DATA_I	データ参照国際化情報	データ参照登録データのうち、国際化に対応するデータを管理します
91.	B_VC_DATA_LIST_CONDITION	データ参照/リスト・抽出条件	データ参照(リスト集計の抽出条件)の設定情報を管理します
92.	B_VC_DATA_LIST_SELECT	データ参照/リスト・カラム	データ参照(リスト集計のカラム一覧)の設定情報を管理します
93.	B_VC_DATA_LIST_SELECT_DISP	データ参照/リスト・カラムの表示設定	
94.	B_VC_DATA_LIST_SELECT_FORMULA	データ参照/リスト・計算式カラム	リスト集計用の計算式カラムの設定を管理します
95.	B_VC_DATA_LIST_SELECT_I	データ参照カラム国際化情報	データ参照に設定されたカラムの国際化情報を管理します
96.	B_VC_QUERY	クエリ	クエリの基本テーブルです
97.	B_VC_QUERY_COLUMN	クエリ・カラム	クエリに設定されたカラムを管理します
98.	B_VC_QUERY_CONDITION	クエリ・抽出条件	クエリに設定された抽出条件を管理します
99.	B_VC_QUERY_LINE	クエリ・結合条件	クエリに設定されたテーブル同士の結合条件を管理します

日本語名とコメントが付加表示されます。

テーブル詳細画面

アカウント / B_M_ACCOUNT_B									
← 新規作成 削除 インポート エクスポート									
☒ 部分一致 ☐ 完全一致 ☐ 以上 ☐ 以下 ☒ AND検索 ☐ OR検索 100 件表示 ☐ 項目名表示切り替え									
☐	ユーザコード	ロケールD	エンコーディング	タイムゾーンID	カレンダーID	週の開始曜日	パスワード	備考	有効開始日
☐	tenant						002TskjyGfX=		1900/01/01 09:00
☒	aoyagi					-1	0A1msl0DLNo=		1900/01/01 09:00
☐	hagimoto					-1	OYL+MePH4tOijZNqTKNI8A==		1900/01/01 09:00
☐	harada					-1	BnR9jd+191U=		1900/01/01 09:00
☐	hayashi					-1	5hzAghrzZ9A=		1900/01/01 09:00
☐	ikuta					-1	xbIPYj/s2g4=		1900/01/01 09:00
☐	katayama					-1	1Ve2ldTfa5OijZNqTKNI8A==		1900/01/01 09:00
☐	maruyama					-1	FQfDOkc0PO2ijZNqTKNI8A==		1900/01/01 09:00
☐	ohiso					-1	HzAdtw8iRC8=		1900/01/01 09:00
☐	sekine					-1	KN6JmpT6db8=		1900/01/01 09:00
☐	terada					-1	cArhxC2BccY=		1900/01/01 09:00

テーブル名とフィールド名が日本語表示になります。

レコードの編集ダイアログも同様に、フィールド名が日本語表示になります。

_vc_data

作成 削除

完全一致

レコードの編集

備考を表示

データ参照コード (PK) *	cross	(文字列)
クエリコード	5i45uj1jnr9nx	(文字列)
データ参照名	クロス	(文字列)
データ参照説明		(文字列)
ヘッダ表示文字列		(文字列)
フッタ表示文字列		(文字列)
データ参照パターン	3	(文字列)
更新日	2012/07/25 12:32:57	(文字列)
検索ウィンドウ表示パターン		(文字列)
1ページに表示するレコード数	0	(数値)
連携プログラムパス		(文字列)
作成者ユーザコード	tenant	(文字列)
更新者ユーザコード	tenant	(文字列)
作成日	2012/07/25 12:32	(タイムスタンプ)
更新日	2012/07/25 12:32	(タイムスタンプ)

◀ 新規登録 更新登録 削除 ▶



コラム

キャプション登録時に textarea にチェックを入れたフィールドは、入力欄がテキストエリアになります。

フィールドにコメントが設定されている場合は、ダイアログの左上に備考の表示/非表示リンクが表示され、クリックすると入力欄の下にコメントが表示されます。

レコードの編集

備考を非表示

データ参照コード (PK) *	cross	(文字列)
クエリコード	5i45uj1jnr9nx データ参照が使用するクエリのコードです	(文字列)
データ参照名	クロス b_vc_data_iテーブルにデータが無い場合のみ使用します	(文字列)
データ参照説明		(文字列)
ヘッダ表示文字列		(文字列)
フッタ表示文字列		(文字列)
データ参照パターン	3 1:リスト集計 2:サマリ集計 3:クロス集計 4:グラフ集計	(文字列)
更新日	2012/07/25 12:32:57 ※予備フィールド	(文字列)
検索ウィンドウ表示パターン		(文字列)
1ページに表示するレコード数	0	(数値)
連携プログラムパス		(文字列)
作成者ユーザコード	tenant	(文字列)
更新者ユーザコード	tenant	(文字列)

テーブル定義仕様書の作成

「仕様書を表示する」ボタンをクリックすると
入力されたキャプションやコメントを使用して仕様書を作成することができます。

intra-mart Top テナント管理 サンプル ViewCreator サイトマップ tenant							
テーブル定義仕様書 データ参照 / b_vc_data							
	名称	物理名	型	サイズ	主キー	NOT NULL	説明
1.	データ参照コード	data_cd	文字列	20	●	●	
2.	クエリコード	query_cd	文字列	20			データ参照が使用するクエリのコードです
3.	データ参照名	data_name	文字列	200			b_vc_data_iテーブルにデータが無い場合のみ使用します
4.	データ参照説明	data_info	文字列	600			
5.	ヘッダ表示文字列	header_info	文字列	600			b_vc_data_iテーブルにデータが無い場合のみ使用します
6.	フッタ表示文字列	footer_info	文字列	600			b_vc_data_iテーブルにデータが無い場合のみ使用します
7.	データ参照パターン	pattern	文字列	4			1:リスト集計 2:サマリ集計 3:クロス集計 4:グラフ集計
8.	更新日	up_date	文字列	25			※予備フィールド
9.	検索ウィンドウ表示パターン	search_flg	文字列	4			※予備フィールド
10.	1ページに表示するレコード数	line_count	数値	20, 0			
11.	連携プログラムパス	program_path	文字列	600			formタグのaction属性にセットする値を記述します
12.	作成者ユーザコード	create_user_cd	文字列	200		●	
13.	更新者ユーザコード	record_user_cd	文字列	200		●	
14.	作成日	create_date	TIMESTAMP			●	
15.	更新日	record_date	TIMESTAMP			●	

インポートとエクスポート

設定した拡張情報は接続ID単位で、XML定義ファイルとしてエクスポート・インポートが可能です。

テーブル・キャプション登録

エクスポート インポート

+ ファイル追加... × 中断 🗑 削除

実行

tenant ▼ 日本語 ▼

検索 絞り込む

テーブル名	キャプション	コメント
▶ b_m_account_attr_b	アカウント属性	
▶ b_m_account_b	アカウント	
▶ b_m_account_dtf	日付と時刻の形式(アカウント)	
▶ b_m_account_role_b	アカウント付与ロール	

コラム

インポートの際は複数のXML定義ファイルを一括でインポートすることも可能です。

※8.0.9 - 2014 Winter (Iceberg)から利用可能です

メンテナンス画面のアクセス権設定

IM-Authz(認可)を利用してテーブル単位でメンテナンス画面へのアクセス権を設定することができます。
この設定を利用することで、特定のテーブルだけ一般ユーザーにメンテナンス操作を許可することが可能です。

目次

- 認可リソースの登録
- テーブル一覧(管理)画面でリソースを登録する
- 権限の割り当て
- テーブル一覧メニューへのアクセス権登録
- テーブルへのアクセス

認可リソースの登録

以下のURIを持つ認可リソースを登録します。※実際の登録操作は後述の管理画面から行ってください

```
service://tablemaintenance/edittable/%データベース接続ID%/%テーブル物理名%
```

例) 以下のテーブルへのアクセスを許可したい場合

接続ID :sample

テーブル名:imm_user

```
service://tablemaintenance/edittable/sample/imm_user
```

上記のように設定します。

認可リソースは下記のリソースグループ配下に作成してください。

リソースグループID	tablemaintenance-table-list
リソースグループ名	テーブル単位の閲覧・編集



コラム

認可リソースは接続IDおよびテーブルごとに登録する必要があります。

テーブル一覧(管理)画面でリソースを登録する

上記の認可リソース登録は簡単なマウス操作のみで実行することができます

1. 「テナント管理」→「TableMaintenance」→「テーブル一覧(管理)」をクリックします。

テーブル一覧

認可設定画面を開く

default

検索 クリア

	テーブル名	説明	認可	仕稼ぎ
1.	b_m_account_attr_b	アカウント属性	✓	📄
2.	b_m_account_b	アカウント	✓	📄
3.	b_m_account_dff	日付と時刻の形式(アカウント)	✓	📄
4.	b_m_account_role_b	アカウント付与ロール	✓	📄
5.	b_m_account_theme	アカウントテーマ	✓	📄
6.	b_m_calendar_info_b	カレンダー情報	📄	📄
7.	b_m_calendar_info_j	カレンダー国際化	📄	📄
8.	b_m_calendar_merge_b	カレンダーマージ設定	📄	📄
9.	b_m_calendar_week_b	カレンダー週情報	📄	📄
10.	b_m_day_info_b	カレンダー日付情報	📄	📄
11.	b_m_day_info_j	カレンダー日付情報国際化	📄	📄
12.	b_m_day_info_set_b	カレンダー日付情報セット	📄	📄

認可リソースを追加登録する

任意のテーブルの「認可リソースを追加登録する」アイコンをクリックします。

緑のチェックアイコンが表示されれば登録完了です。

テーブル一覧

認可設定画面を開く

default

検索 クリア

	テーブル名	説明	認可	仕稼ぎ
1.	b_m_account_attr_b	アカウント属性	✓	📄
2.	b_m_account_b	アカウント	✓	📄
3.	b_m_account_dff	日付と時刻の形式(アカウント)	✓	📄
4.	b_m_account_role_b	アカウント付与ロール	✓	📄
5.	b_m_account_theme	アカウントテーマ	✓	📄
6.	b_m_calendar_info_b	カレンダー情報	📄	📄
7.	b_m_calendar_info_j	カレンダー国際化	📄	📄
8.	b_m_calendar_merge_b	カレンダーマージ設定	📄	📄
9.	b_m_calendar_week_b	カレンダー週情報	📄	📄
10.	b_m_day_info_b	カレンダー日付情報	📄	📄
11.	b_m_day_info_j	カレンダー日付情報国際化	📄	📄

登録済み



コラム

登録した認可リソースを削除する場合は、「認可設定画面」で操作を行う必要があります。
詳しくは「[テナント管理者操作ガイド - 認可を設定する](#)」を参照してください。

権限の割り当て

認可設定画面で、登録したリソースにアクセスを許可したいユーザやロールを割り当てます。

テーブル一覧画面から「認可設定画面を開く」メニューを選択します。

テーブルのアクセス権設定

🔍 エクスポート ⚠️ キャッシュクリア

アクションの種類 全てのアクション

☒ 全て許可
 ☒ 全て禁止
 ☒ 全て未設定
 📄 条件の新規

リソース	アクション	認証		組織		ロール				
		ゲストユーザ	認証済みユーザ	サンプル会社	その他会社	テナント管理者	認可管理者	メニュー管理者	メニュー運用管理者	アド...
画面・処理										
TableMaintenance										
テーブル一覧・一般ユーザ向け	実行	✖	✔	✖	✖	✖	✖	✖	✖	✖
テーブル単位の閲覧・編集	実行	✖	✖	✖	✖	✖	✖	✖	✖	✖
default\BK_IMM_CORPORATION	実行	✖	✔	✖	✖	✖	✖	✖	✖	✖
default\BK_IMM_COMPANY	実行	✖	✔	✖	✖	✖	✖	✖	✖	✖
default\BK_IMM_COMPANY	実行	✖	✔	✖	✖	✖	✖	✖	✖	✖
default\BK_IMM_CORPORATION	実行	✖	✖	✖	✖	✖	✖	✖	✖	✖
default\BK_IMM_COMPANY	実行	✖	✖	✖	✖	✖	✖	✖	✖	✖
default\BK_IMM_COMPANY	実行	✖	✖	✖	✖	✖	✖	✖	✖	✖

テーブル一覧画面を使用を許可するユーザやロールなどに「テーブル一覧・一般ユーザ向け」の実行を許可します。

コラム

一般ユーザ向けのテーブル一覧画面では認可リソースの追加や認可設定を行うことはできません。
管理者ロールを持つユーザのみがアクセス権に関する操作を実行できます。

「テーブル単位の閲覧・編集」配下に登録されているテーブル単位のアクセス権リソースに対して適切な実行権限を割り当てます。

コラム

テーブル単位のアクセス権認可リソースは「テーブル単位の閲覧・編集」配下以外の場所に登録されていても適切なURLで直接アクセスすることは可能です。
ただし、テーブル一覧画面には表示されませんので、古いバージョンで登録済みのリソースがある場合は適宜、認可リソースの移動（削除と再作成）を行ってください

テーブル一覧メニューへのアクセス権登録

一般ユーザにテーブル一覧画面のメニュー項目を開放します。

1. 「テナント管理」→「メニュー」をクリックします。

権限設定アイコンをクリックして、TableMaintenanceの参照権を付与します。

権限設定 (サイトマップ(PC用))

アクションの種類

全てのアクション

全て許可

全て禁止

全て未設定

条件の新規

リソース	アクション	認証		組織		ロール				
		ゲストユーザ	認証済みユーザ	サンプル会社	その他会社	テナント管理者	認可管理者	メニュー管理者	メニュー運用管理者	アド
メニューグループ										
サイトマップ(PC用)										
ポータル	管理									
	参照									
ViewCreator	管理									
	参照									
TableMaintenance	管理									
	参照									
テナント管理	管理									
	参照									
共通マスタ	管理									
	参照									
サンプル	管理									
	参照									

テーブルへのアクセス

上記操作でアクセスを許可された一般ユーザでログインします。

1. 「サイトマップ」→「TableMaintenance」→「テーブル一覧」をクリックします。



許可されたテーブルのみが一覧に表示されます。

default ▼

検索 クリア

	テーブル名	説明
1.	BK_IMM_CORPORATION	
2.	BK_IMM_COMPANY_GRP	
3.	BK_IMM_COMPANY_GRP_ATH	

テーブルインポート・エクスポートをジョブとして登録する

テーブルインポートとテーブルエクスポートはジョブとして登録・実行することも可能です。

※8.0.9 - 2014 Winter (Iceberg)から利用可能です

目次

- テーブルインポートジョブの登録
- テーブルエクスポートジョブの登録

テーブルインポートジョブの登録

サイトマップから「テナント管理」-「ジョブ管理」-「ジョブ設定」を選択します。

テーブルインポート用のジョブを作成します。

ジョブ情報

基本情報

ジョブカテゴリ	TableMaintenance	
ジョブID	table-import-sample	
ジョブ名	日本語	テーブルインポートサンプル
	英語	テーブルインポートサンプル
	中国語 (中華人民共和国)	テーブルインポートサンプル
ジョブの説明		

実行時の情報

実行言語	JavaScript ▼								
実行プログラム	tablemaintenance/ajax/import_run								
実行パラメータ	パラメータリスト <table> <thead> <tr> <th>キー</th> <th>値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>db_source</td> <td>tenant</td> </tr> <tr> <td>import_filepath</td> <td>sample/files/IMM_USER.csv</td> </tr> <tr> <td>import_options_path</td> <td>sample/import_options4job.xml</td> </tr> </tbody> </table>	キー	値	db_source	tenant	import_filepath	sample/files/IMM_USER.csv	import_options_path	sample/import_options4job.xml
キー	値								
db_source	tenant								
import_filepath	sample/files/IMM_USER.csv								
import_options_path	sample/import_options4job.xml								

依存情報

このジョブを使用しているジョブ

使用情報リスト

ジョブカテゴリとジョブの「基本情報」は任意の値を設定してください。

「実行時の情報」の設定項目は以下の通りです。

- 実行言語

「JavaScript」を選択してください。

- 実行プログラム

「tablemaintenance/ajax/import_run」を設定してください。

※固定値です。

- 実行パラメータ

キー	値
db_source	データベース接続IDを設定します。

キー	値
import_filepath	インポートファイルへのパブリックストレージパスを設定します。
import_options_path	インポート時に適用するオプション設定XMLファイルのパブリックストレージパスを設定します。 設定内容の詳細については「 エクスポート・インポートの設定をファイルで管理する 」を参照してください。

テーブルエクスポートジョブの登録

サイトマップから「テナント管理」-「ジョブ管理」-「ジョブ設定」を選択します。

テーブルエクスポート用のジョブを作成します。

ジョブ情報

基本情報

ジョブカテゴリ

TableMaintenance

ジョブID

table-export-sample

ジョブ名

日本語	テーブルエクスポートサンプル
英語	テーブルエクスポートサンプル
中国語 (中華人民共和国)	テーブルエクスポートサンプル

ジョブの説明

実行時の情報

実行言語

JavaScript ▼

実行プログラム

tablemaintenance/ajax/export_run

実行パラメータ

パラメータリスト

	値
db_source	tenant
export_options_path	sample/export_options4job.xml
export_target_path	sample/files

依存情報

このジョブを使用しているジョブ

使用情報リスト

ジョブカテゴリとジョブの「基本情報」は任意の値を設定してください。

「実行時の情報」の設定項目は以下の通りです。

- 実行言語

「JavaScript」を選択してください。

- 実行プログラム

「tablemaintenance/ajax/export_run」を設定してください。

※固定値です。

■ 実行パラメータ

キー	値
db_source	データベース接続IDを設定します。
export_target_path	エクスポートファイルの出力先です。 任意のパブリックストレージのディレクトリパスを設定します。
export_options_path	エクスポート時に適用するオプション設定XMLファイルのパブリックストレージパスを設定します。 この設定の中にはエクスポート対象とするテーブル名が含まれます。 設定内容の詳細については「 エクスポート・インポートの設定をファイルで管理する 」を参照してください。